

平成 28 年 11 月 25 日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 笠原 久恵 様

議会報告会 3 班
班長 斉藤 真理
西尾 段
大塚 洋一
笠原 久恵
楠山 栄子
乾 紳一郎
海老原 功一

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成 28 年 11 月 12 日 (土)
午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
- 2 場所 駒木台福祉会館
- 3 欠席議員 なし
- 4 参加者数 24 人 (内、他班の議員 2 人、職員 2 人)
- 5 報告内容
(1) 平成 27 年度決算について
(2) フリートーク

6 意見交換内容

(1) 平成27年度決算について

【Q1】

人件費の呼び方に関し、市の正職員は「人件費」と言うのに対し臨時職員やパートは「物件費」と言うのはなぜか。また、市の人件費は減ったというが相対的にはどうか。

【A1】

名称の使い分けに関しては、国や地方自治体での約束事となっている。確かに人件費全体の額は年々下がっているが、高額であった団塊世代職員の退職と新人職員の採用や、正職員でない臨時職員等が増加している。

【Q2】

決算用語に関し、実質公債比率や将来負担比率とは具体的にどのようなものか。

【A2】

これは、国の総務省が地方自治体の財政状況を比較できるようにいろいろな指標を出してきた一部である。この枠の中にあれば大丈夫といった使い方をしている。

【Q3】

ごみの集団回収の報奨金に関し、柏市や松戸市は1キロ4円としているのに対し、流山市では8円である。総額で8,000万円掛かっているが半分にできるのでは。

【A3】

単に、8円が高いか安いだけでなく、流山市の報奨金は、ゴミステーションの管理や各自治会のコミュニティに関する施策、そして自治会館の運営費などにも活用されている。

(2) フリートーク

【Q4】

流山インター周辺の物流倉庫の建設に関し、どのような開発で

あり、外資系か日本の会社なのか、雇用人数や土地は賃貸か売却なのかを知りたい。

【A4】

開発は民間で行っており、市は関係していない。購入したのはダイワハウスであり、東急不動産が間に入っている。雇用は、昼夜24時間体制で1万人程である。土地は全て売却である。その他の詳細については議会には絵や図面しか提示されていないのでまだ不明である。ただ、問題として、既存の工業団地従業員の時給が800円から900円に対し、物流倉庫では1,000円から1,200円との話も聞いている。

【Q5】

現在、流山市にはどのような問題があるのか。話題となっている政務活動費や、高齢者や保育園の問題など具体的にどのようなものがあるか。

【A5】

政務活動費に関しては、いろいろ流山市にも問合せがあるが一切問題ないと答えている。政務活動費は1人幾らの計算でその合計を会派に支給している。また、会派には責任者を置いており、研修も行い、1円以上の領収書も確保されている。最終的には事務局も確認しており、無駄には使用できないようにしている。

その他の問題について各議員から回答。

① 笠原議員

2025年問題、今の団塊の世代が75歳以上を迎える時代にもなる。既に流山も高齢化が進んでおり、老老介護の問題などが課題。

② 斎藤議員

高齢化に伴う空き家問題や住み替えの推進が必要。子育て支援に関し、施設はできても保育士不足であること。潜在保育士の発掘などが課題。

③ 西尾議員

自治会活動や地域活動の参加に関し、期待される人、そこを担う人（30代から50代）が少ないことが課題。中年のおじさん

やお父さんのつながりも必要。

④海老原議員

おおたかの森小中学校にエアコンが付いていないという問題があったが、定例会で取り上げられ今年度設置することになった。おおたかの森駅周辺は戸建てやマンションが無計画に建設されている。若い世代が転入してくるのはよいが、小山小学校やおおたかの森小中学校の増設が必要となっている。我々議員は執行部に対するチェック機能であり、予算の権限などない。しかし、市民の皆さんの代弁者であることから皆さんの意見を反映できるよう取組んでいく。

⑤楠山議員

最近高齢者の運転事故の事例が多い。免許書を返上すると生活がものすごく狭まってくる。東部地域でも「暮らしの足を守る会」を創設した。改めて公共交通を見直し、高齢者にも適した交通計画が必要と考える。

⑥大塚議員

流山市の人口増加が急激であり、学校や保育士不足といった問題がある。また、マンションの増加に対しても問題を感じているが、一方、区画整理もしっかりやりきらなくてはいけない。新三郷流山橋の開通までに、流山の魅力の向上が必要である。

⑦乾議員

流山市は住んでいる所によってものすごく街の様相が違う。例えば駒木台、江戸川台、松ヶ丘は昔からの住宅地であり、高齢化や介護や空き家などの問題があり、街を作り変えていくような発想でまちづくりを展開すべきである。一方、新しい区画整理でできた街には、圧倒的に子育て施設が足りない。無計画で企業の利益を上げるための場だけになってはいけないという課題がある。

【Q6】

特別養護施設の計画はどのようになっているのか。また、待機者はどのくらいいるのか。

【A6】

流山市の高齢者支援計画は3年毎に作られている。現在の計画

は平成27年から29年であり、今後の2年で2カ所に200床を計画している。待機者については、昨年から要介護3以上となり少し減少傾向であるが、平成28年1月1日現在で300人（重複者を含む）である。

【Q7】

議員報酬をもっと上げるべきでは。自己申告制にしてもいいのでは。

【A7】

議員報酬の議論は最近下げるといったことしか出ていない。

【Q8】

クリーンセンターに保管されている放射能焼却灰はいつ処分されるのか。

【A8】

国は、都道府県単位で一か所に集中させるという計画であるが、千葉県では設置場所が決定していない。現在の焼却灰はボックスカルバートで保管されている。流山市としては、国の責任で処分するよう引き続き要望していく。

【Q9】

高齢者等市内移動支援事業による病院バスの詳細について。

【A9】

地域の中で病院バス（協力している4病院）が通行している場合、65歳以上の方は市でパスを作成すれば無料で利用できるサービスである。市は保険費用を補助しているが、それ以外は協力してくださる病院のご厚意によるものである。

7 参加者から議会への要望

●今回の決算に関する議会報告会の進め方は問題である。マクロな数字を示されるだけでは一般市民は意見の出しようがない。

例えば、決算委員が全会一致で要望した7項目のうちの1つの、ゴミ焼却関連において、どのようにお金が使われて、それが過去から増えているのか減っているのかや、最近ニュースとなった小中学校の洋式便座の設置に関して、流山ではどのくらいの普及であり、年間予算は幾らで、一か所設置する費用はどのくらいかといったような具体的な数字を示した形で報告会を開くことを要望する。(※一方、他の市民からは「我々市民にとってもこの決算という中身は難しい。しかし、知るチャンスや情報もあるのだから、我々市民側も事前に質問内容を研究したりするといい」といった意見があった。)

●免許証を返納したある一定の年齢の高齢者に対して、市バス等の公共交通を利用し無償でどこへでも行かれるような制度の構築を要望する。

●スポーツフィールドに接続する道路の整備は現在2mの農道を6mの道路にする計画であるが、周辺の環境や斜面緑地に配慮し、地元住民以外の通過交通を禁止し歩行者や自転車専用道として計画を進めることを要望する。

8 所感

■乾 紳一郎

市民経済委員会の7人の議員による議会報告会は3回目の報告会でした。市民の参加も20人と、意見交換するにはちょうどいい規模であったと思います。決算審査の報告に対する質問を聞いたところ、「どう質問していいのかわからない」とのご意見もあり、決算や財政について、わかりやすい説明はどうしたらいいのか知恵を出さなければならないと思いました。2時間の予定時間が短く思えるほど、多くの質問や意見が出されたことは、わたしのこれまでの経験でも、いい議会報告会だったといえると思います。

1期目が2人、2期目が3人と議員経験の浅い人が多い3班で

すが、支持者の前だけでなく一般の市民の前で、質問に答えたり、意見をのべたりすることは、個々の議員の力も高めるものです。イデオロギーや政治的な立場の違いはあっても、多様な市民の声を受け止め、議員として成長して欲しいと思います。

■ 齊藤 真理

西尾議員の決算についての報告が、わかりやすくとても良かった。議会報告会は毎回「筋書きのないドラマ」今回も、様々なご意見を頂き、とてもありがたいことだ。

■ 海老原 功一

さまざまな方の多方面のご意見を頂くことができ充実した報告会でした。

■ 楠山 栄子

市民の方から聞いたたくさんの声の中で一番心に響いたのは、「マクロレベルの話は議会でやって欲しい。市民に対しては、もっと身近な問題の報告が欲しい。わかりやすく報告して欲しい」議会報告会そのものへの指摘だと思う。真摯に受け止めたい。

■ 笠原 久恵

今回の班構成で最後の議会報告会となりましたが、とても良い内容だと思いました。市民の参加者も20名もいらっしゃいましたし、内容についても、範囲を限定しませんでしたので、ゴミの集団回収報償費や洋式便座の普及率や介護のことまで幅広くご意見やご質問を頂きました。次回以降も市民の中に出向いて市民のご意見を聴く機会を大事にしていきたいと思います。

■ 西尾 段

今回、市民の参加者が20名と、前回の13名、その前の3名に比べて順に増えてきていることが最もうれしいことでした。

また、自分自身が決算審査委員として決算の状況報告をするために資料作成から取組ました。

報告会の場で「内容が初歩的すぎる」との強い指摘を受けました。議員として市民のみなさまに満足していただくためにはまだまだ勉強が足りないと思いました。反省し今後の活動に活かして参ります。決算審査の状況報告が終わったあとのフリートークでは、多くの市民の方が発言して下さいました。中でも議員の皆さんが感じている流山市の課題は何かという質問をいただき、その点について全ての議員が発言できたのはとても有意義だったと思います。

今後も活発な意見交換ができるように対応して参ります。

■大塚 洋一

今回の議会報告会の市民の方からの質問の中で集団回収の奨励金の話があったが、個人や自治会によっていろいろ考え方や捉え方の違いがあるのだと考えさせられた。

また、報告会の内容に対する厳しい指摘があった一方で、市民側からもこの報告会をより有意義なものにしようという前向きな意見を頂いたので、これらのことを今後の報告会に活かして行きたいと思った。